

## 透析液

Q6

「透析液の清浄化」ということを最近よく耳にするようになりましたが、透析液の清浄化はわれわれ患者にどのようなメリットがあるのでしょうか。

A6

「透析液が清浄化されている」ということは、一般的に、透析液中のエンドトキシン濃度が低いことと、透析液中で細菌が繁殖していないことを指しています。エンドトキシンとはあまり聞き慣れない言葉だと思いますが、透析液の回路内で繁殖した細菌の出す毒素と考えてください。そしてこのエンドトキシンは、透析中に、ダイアライザーを通して透析を受けている患者さんの血液中へと入ってしまう危険性があります。滅多にないことですが、もし多量のエンドトキシンが一度に血液中に入ると、突然高熱が出ることがあります。昔のコイル型ダイアライザーの時代には、ダイアライザーの膜が破れた時に発生する発熱の予防くらいしか問題になりませんでした。最近では、膜の進歩とともに透析液のエンドトキシン濃度に注意を向けるようになってきました。透析とは、透析液という水で患者さんの血液を洗っているようなものですから、エンドトキシン濃度が低くてきれいな透析液で洗うほうが良い結果がでるのは、当然のこととされます。

では、エンドトキシン濃度が低い場合と高い場合とでどのような差が生じるのでしょうか。

か。例えば低い場合には、手根管症候群など、長期透析患者さんによくみられる透析アミロイドーシスの発症率の減少や発症の遅延があげられています。また高い場合には、体内で慢性的な炎症状態が持続しやすい結果、血漿タンパクという非常に大事なタンパク質が無駄使いされることになり、低栄養状態や高度の貧血が起りやすくなります。エンドトキシン濃度を低くすることによりこの状況が改善されるため、安定した長期透析生活に一番大事な栄養状態の改善や貧血の改善がほとんどすべての患者さんに期待されます。さらに、炎症状態の改善により、動脈硬化の進展予防にもつながるといわれています。このように、透析液の清浄化は非常に数多くの長所があるようです。

医療機関にとって現在一番問題なのは、この透析液清浄化の費用が診療報酬で全く評価されていないことであり、また、この効果ははっきりとは目に見えないため、患者さんにもすぐには気がついてもらえない点です。しかし、エンドトキシン濃度の低い透析が主流になることは間違いありません。

(川島 周/川島会 川島病院・医師)